

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 22 日

【評価実施概要】

事業所番号	2191100011		
法人名	株式会社マル若商店		
事業所名	グループホーム「ホープ」		
所在地	多治見市希望が丘2-1-2 (電話) 0572-25-3936		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年9月21日	評価確定日	平成19年11月16日

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 6 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 11 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 4 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	24,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 6 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.5 歳	最低 76 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人仁寿会タジミ第一病院・おなだ歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中にあり、周辺の一般住宅の外観と違和感なく建っている。玄関先にはプランターに花が植えられ、スロープから採光のよい明るい玄関へと進むことができる。すぐ前には、グラウンドがあり、車の出入りも少なく散歩するには絶好の環境にある。職員はゆったりと対応し、入居者と同じ食事を共にしている食事風景や、入居者同士が互いの気遣いをし合っている様子は、共に生活していることが感じられ、暖かい気持ちになるよいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	今回が始めての受審となる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価を、自らの事業所の振り返りの機会として捉えて、サービス向上にむけて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議を、地域住民や市など第三者からの提案をもらえる場としている。地域に対してはグループホームを理解してもらえるように、市からは研修・情報、助言を得、サービスの向上につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族に対しては、毎月通信にて利用状況の報告をしている。受診時や面会時をとらえ、家族の方とできるだけ話をするように努め、要望や意見を聞き取るように努めている。家族からも意見を聞いてもらっていると評価がある。開所当初、職員の入替わりが多く、家族からの不安があったため職員の定着を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	自治会に加入しており、グラウンドの清掃活動、ゴミ当番には、出来る入居者と共に参加している。防災訓練に町内の人や民生委員に参加してもらっている。回覧板をまわすときなどを利用した日常的な関わりづくりなど地域との連携に努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の皆様と協力し合い、地域生活を通してご入居者のすこやかなる、心温かな暮らしを育んでで参ります」と、理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を運営方針に具体化し、玄関や職員も常に目に出来るようにキッチンの壁にも掲示している。毎月の職員会議で理念の下、ケースごとに検討をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として、清掃活動やゴミ当番などを担当し、出来る入居者と共に参加している。ホームの敬老会に地域の方にも参加してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回はじめての評価にあたり、振り返りの機会と捉え、サービス向上に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方にホームを理解してもらうためにホームの様子を紹介したり、入居者や家族の意見を聞く場としている。又、第三者からの提案を受ける場と捉えている		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉課へは事故や感染についての報告し、情報提供を受けている。包括支援センターからは研修の情報提供を受け、参加するようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月1回通信を送り、預かり金等の報告をしている。生活や心身の状況については、面会や受診の付き添い時に報告している。	○	家族に職員の入・退職に関してもタイムリーに報告し、理解を得るようにされるとよい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声をかけ、話をするように努め、要望や意見を引き出すようにしている。運営推進会議に家族の方にも参加をしてもらい、話せる機会を作るようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所後半年くらいは職員が定着しにくく、家族からも入れ替わりが多いと指摘があった。ホームに合った職員の定着が図れるように努め、入居者との良い関係をつくりつつある。	○	入居者が、安心して生活できるように職員が定着することを期待する。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修に対して必要性を認識しており、出来るだけ外の研修に出られるよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と行事などを通して、互いに出向いて交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の家庭訪問を通して生活歴の把握等に努め、ホームの説明を行っている。入居初期は家族の支援をもらい、面会を頻回に積極的にしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の出来ること、支援の必要なことを把握し、個々の生活歴を尊重し、支えあえる関係づくりに努めている。		

外部 評価 値	自 己 評 価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の対話を記録に残し、心身状態の把握に努め、日々の暮らしの中に提案できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族の希望や生活歴等を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族、主治医、職員がモニタリングした内容、意見等を反映させて、3ヶ月毎に見直ししている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師を配置しており、医療体制の連携を充実させている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時に対応がしやすいように、近くの医師との連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化した場合における医療体制について説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家庭的な雰囲気の中で、強制や余計なことはしない、言わないよう心がけている。個人情報の取り扱いは規定に沿って行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の選択と自己決定を尊重し、一人ひとりが好んだ自分らしい生活が保てるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人には出来る内容で、食事の準備や片付けを職員と共にやってもらっている。入居者は自分の役割として参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回となっている。現在は毎日の入浴を希望する人はいないが、要望に応じるようにはしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カレンダーに予定を記載し、楽しみにしてもらおうようにしている。生活歴から一人ひとりに合わせた、掃除、片付け、洗濯たみなど出来ることを役割と感じられるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	計画的に、喫茶への外出（軽食など）をしている。職員の業務と調整しながら、入居者の希望に沿う形で出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の玄関以外は施錠はしていない。安全に配慮して対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との避難訓練を実施し、消火器の扱い、緊急通報についても訓練している。地域の人にも立ち会ってもらい協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間自由にお茶を飲めるように設置している。献立は家庭的なものに努めて、摂取量に気をつけている。介助の必要な利用者は、隣の席に職員が座り支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節の花や、手づくりの作品などが飾られ、生活を感じられる物品が自然な形で収納されて、家庭的な落ち着きがある。テレビの前には、ソファが置かれ、くつろいで見る事が出来る。テレビが常時ついていて。食堂が少し暗い感じであった。	○	テレビは必要時につけるとよい。食堂の採光に工夫されることを期待する。さらには玄関の上がり口に椅子等を設置し、安全に配慮があるとよい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの品を持ち込むように勧めている。居室には家族からの写真や手紙などが飾られていた。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。